

# 樺太に於ける道路

樺太廳拓殖部長 井本 滿助

本島は領有以來未だ十八九年に過ぎず施設を要するもの頗る多端に屬し隨て道路の如きも統一的計畫を立て整然たる優良道路を築造するは豫算經濟上不可能に屬す、然れども將來拓殖の進歩に伴ひ必ずや改良の必要を生ずること明かなるを以て現今は其基礎となるべき道路網、断面、匂配、方向、屈曲の具合及幅員等を考慮斟酌し豫算の許す範圍に於て最善の工法を以て之れが築造に努力しつゝあり。

露領時代に於ける本島道路は其設備甚だ不完全にして觀るに足るべきもの殆んどなかりしも領有以來說意之れが設備計畫をなし曩きに大正十年に於て五ヶ年の繼續事業として道路開鑿の基本を策立し始めて本島幹線的道路網を形成するの端緒を得るに至れり。

本島は由來石材、玉石及砂利に乏しく路床及路面の築造頗る困難を極め完全なる道路を築造するには多大の經費と努力とを費さざるを得ずツンドラ層又は泥炭地に至りては經濟的施行方法は殆んどなきものゝ如し、比較的薄層の個處は之れ

を除去して下層の土壤と代はらしむと雖ども厚層（稀に十尺乃至十五尺の厚層を見る）に至りては斯くの如き工法を施すを得ず爲めに姑息の方法として砂を散布し適宜の濕度を之れに保たしむるにあり然るときは歩行は勿論輕き荷車等は比較的容易に通行するを得るも乾燥時期、一朝山火事の災に遇ふときは瞬時にして道路を失ふの奇觀を呈することあり。

本島道路を分けて國道及農耕道路とし農耕道路は更に之を官營及補助の二に分つ、國道は大正六年八月告示を以て之を定め本島道路網の中心を成し此の間點在する農耕地に對し其の開拓の必要に應じ農耕道を配設す、而して農耕地中比較的大殖民地に連結するの必要ある等所謂開拓の根系的關係に在るものに對しては幅員を二間半以上とし官の直營を以て工事を実施し其然らざるものに對しては地元住民をして工費を負擔せしめ相當補助金を交付して之を助成し國道の施工と相待つて島内道路網の完成を企圖せむとするものなり。

本島國道を分けて左の十五街道とす。

大泊街道、榮濱街道（以上を泊榮線と總稱す）

元泊街道、敷香街道、眞縫街道

眞岡街道、留多加街道、富内街道、長濱街道

雨瀧街道、本斗街道、泊居街道、鵜城街道

清水街道、安別街道、野寒街道、知床街道、遠山街道、散

江街道

今各街道に付其要領を述べんとす。

#### 各道路共通せる事項

道路の幅員は二間乃至三間とし其構造は一般に眞土なるも

ツンドラ層、死炭地及砂地等亦尠ならず。

傾斜は十分の一を最急とし曲半徑は六間を以て最少とせり

橋梁の幅員は概して道路幅に準ず其の構造は桁橋、ハウ式

キング式、クキン式構桁なるも過半以上は桁橋にして凡て本

造とす最大荷重は一平方間坪に三百貫を以て之を限度とせ

り。

#### 大泊榮濱間

此區間は民政署時代に於て既に車馬の通行を稍々安全ならしむる程度に修築したるも樺太廳の所管に移るや多年の間之が改良に勉めたる結果現今に於ては本島中優良通路の一として數へらるるに至る沿線は比較的砂利多量なるを以て維持容

易なり而て大泊豊原間を大泊街道、豊原榮濱間を榮濱街道と稱し延長二十四里とす。

#### 榮濱、國境間

本線中榮濱元泊間を元泊街道、元泊、内路間を敷香街道及内路國境間を半田澤街道と稱す。榮濱東白浦間は往時屢々修繕を加へ且つ四十三年以後に於て橋梁數十個處を修繕し又道路の補修により辛じて車馬の交通を見たるも東白浦以北は殆んど道路と稱すべきものなく歩行困難を極め旅人往々危難の厄に遇ひたるも大正九年軍用道路として開鑿せられし以來此間八十六里の道路は全く舊來の面目を一新し安全に車馬の通行を見るに至れり。

軍用道路と稱するは榮濱國境間、内路、敷香間、眞縫久春内間にして此總延長百里にして大正九年北樺太防備關係上陸軍當局に於て多額の豫算を支出し樺太廳代つて工事の衝に當り八月初旬より十一月下旬に至る僅か四ヶ月間の日子にて全部を竣工せしめたり。

該地方は未開の地にて人跡甚だ稀なり隨つて輸送の不便名狀すべからず然るに數千の人夫を配布し滞りなく物資を供給するすら大難事に屬し當事者は特に之れに向つて憂慮せるも幸に従業者の獻身的努力により斯の如き短期間に於て竣工す

るを得たり。

#### 眞縫久春内間

本線を眞縫街道と稱し本島中東西海岸を貫通する最も狹少なる部分にあり其延長約八里交通上主要の路線にして往時露領時代の開鑿に係り其工事極めて粗悪なるもの有りしも東海岸同様軍用道路として開鑿せられし以來現時は自動車の運行を見るに至れり。

#### 豊原眞岡間

本道路を眞岡街道と稱し里程十九里余本島内部と西海岸との連絡幹線にして本島唯一の主要道路なりとす豊原より軍川に至る約二里の間は平野なるも其以西眞岡に至る間は山脈連

亘南北に走り留多加川の上流其間を流れ山嶺溪谷相迫り樹木鬱蒼として満山を蔽ひ其地勢頗る峻峻たり其間最も高嶺なるは春日峠にして海拔一千七百余尺路線蜿蜒辛じて山頂に達す該路は三十八年中民政署當時に於て假開鑿（伐開巾四間）の作業を竣功し大小百余の假橋梁を架設茲に漸く其連絡を見た

り越へて四十年樺太廳の所管に移るや多額の經費と努力とを拂ひ之れが開鑿に従事し約三ヶ年にて全部を竣功し始めて車馬通行の便を得たり以來十數年間橋梁の架替又は修繕路線の改良及路面の補修等絶えず道路維持の方法を講じ來り現今に

於ては本島第一の優良道路となり約半歲の間自動車により交通頻々たり。

#### 豊原留多加間

本區間を留多加街道と稱し延長九里余本島内部と亞庭灣との連絡道路なり是れ亦露領時代の徑路なりしも大正十年開鑿工事を竣工し現時は稍々完全なる道路となり車馬交通の便を得たり。

#### 大泊富内間

本區間を長濱街道と稱し亞庭灣と東海岸との連絡道路にして延長十六里大正十一年開鑿を完了するや現今に於ては自動車

#### 大泊中知床間

本區間を長濱街道と稱し東灣内に於ける海岸線にして延長二十六里余なるも現今に於ては大泊を基點として約八里の開鑿を見る。

#### 貝塚西能登呂間

雨龍街道と稱し全長二十八里目下貝塚を起點として江ノ浦に至る二里余を開鑿せり大泊留多加間に於ける唯一の道路なり。

#### 眞岡西能登呂間

本斗街道と稱し西海岸南部の海岸線にして全長三十七里余内開鑿に屬するものは眞岡を基點として十五里余本年度に於て兩名好迄約八里の開鑿を見るに至るべし。

眞岡久春内間

泊居街道と稱し西海岸中部に於ける海岸線にして全長二十九里余内開鑿に係るものは眞岡を基點とし二十六里余其間一部未開鑿に屬する處あるも本年度に於て全部を完成する見込なり。

久春内安別間

本區間は鵜城街道及安別街道の二とし西海岸北部に於ける海岸線にして久春内を起點として國境に迫る全長約六十二里本島中第一の難路にして別に道路の築造なく或は海濱砂礫の上を歩み或は密林伐開の間を交通し斷涯に至れば梯子により綱により其危險なる名狀すべからず北名好以北は殊に甚だしとす該路沿線は本島中最も未開の部に屬し旅客の交通甚だ稀なり隨て巨額の國幣を費し之れが開鑿工事を施すは尙早なるを以て單に難所整理に止め數年來着々工事を進めつ々あり。

留多加川口、蘭泊間

本道路を清水街道と稱し亞庭灣と西海岸との連絡道路にして眞岡道路と逢坂に於て交叉し蘭泊に至るものとす延長約二

十里該路は元來農耕道路なりしも拓殖上樞要なる道路なるを以て昨年度より國道に編入せらる而て之れが全通を見るも近きにあるべし。

右の外野寒、知床、遠内、散江の各街道に付ては未だ改修の工事着手するに至らず。

今以上を概括して表示せんとす。(圖面参照)

區	間路	巾總延	内開鑿 セル延	著名徑由地街	道名
大	濱泊	三間	二十四里 二十四里 三十三丁 三十三丁	豐原、小沼	大泊豐原間を大濱街道
榮	濱	三間	八十六里 八十六里 十九丁 十九丁	東白浦、元泊、東知取、内路、	榮濱元泊間を元濱街道、元泊敷内路國境間を半田澤街道
眞	縫	三間	九里 八里 九丁 八丁		眞縫街道
久	春	三間	十九里 十九里 一丁 一丁		坂眞岡街道
眞	岡	二間半	九里 九里 三十二丁 三十二丁		川留多加街道
豐	原	二間半	十六里 十六里 古		牧富内街道
大	泊	二間半	二十六里 二十六里 一町		濱長濱街道
大	泊	二間半	二十七里 二十七里 一町		濱長濱街道



